

8日目 江尻 -> 府中 -> 丸子 -> 岡部 -> 藤枝

草薙神社

8日目は江尻宿と府中宿の中間の草薙駅を4月17日、7時半にスタート。前日の東京は41年ぶりの遅い降雪で寒かったが、本日はやや雲が多いものの晴天。駅を出て旧東海道を横断し、最初から草薙神社に往復3Kmほどの寄り道。この神社はヤマトタケルノミコトが祭神でミコトが草薙の剣を奉納した神社であり、その草薙の剣は後に朝廷に返還され、いわゆる3種の神器の一つとなったという。

ヤマトタケル像



花火の大筒



流星煙火



神社の入り口にヤマトタケルの像があり、境内にはいるとまず大きな古木が目につく。これは樹齢1000年の楠木だそうで、木の中心部は枯れたものの樹皮が生き残っていて小枝に葉がついており、ご神木となっていて、静岡市の天然記念物と書かれていた。

それよりも、三ヶ日の花火の筒よりもはるかに大きな人の背丈ほどの花火の筒と戦国時代のロケット弾「流星煙火」、これは物干し竿の先に円錐形の筒をつけたもの、の方が面白かった。

この「流星煙火」は兵器ではなくのろしの役目だったようで、いまでも毎年祭りで打ち上げているとのこと。

この草薙神社に行く途中の交差点に「日本平までxxKm」の標識があり、東名高速で休憩する日本平のパーキングエリアはこの付近となる。

草薙の駅まで戻り、国道1号線と平行して住宅街の中を抜けている旧東海道を歩く。日曜日の早朝であり、たまに家の前を掃除している人を見かける程度で人影は少ない。ピアノの音が聞こえて、なんとなく記憶にあり、遠い昔に姉が弾いていたバイエルのxx番では？

旧東海道は、昔の街道であることを意識して道路標識を置き、歴史的な説明板の多いところと、何の標識も古い建物もなく、本当に間違いなく旧東海道を歩いているのかと不安になるところがあるが、このあたりは後者。

静岡春日町付近の記念碑、旧東海道はこの右手で線路の下を潜り抜ける



西郷隆盛と山岡鉄舟会見の碑



府中宿 19 番目

国道1号線と離れたり一緒になったりして道は静岡市の中心部に近づき、交通量が増える。JR東海道本線の南側を歩いてきて、その道が線路と交わる場所に「旧東海道記念碑」があり、このあたりの線路は東海道本線に新幹線も加わり、更に貨物の引込み線もあって幅広く、記念碑のすぐそばから、暗くて狭くて長い、足元に水たまりのある陰気な地下道を通して東海道本線を北側へくぐり抜ける。交通量は一段と増え、静岡市の中心部に近づきつつあることを実感。横田町を抜け、伝馬町にはいると、人は一段と増え、繁華街の雰囲気。オープン前の建物の前に若者が列を作っていて、その建物を見るとSHIZUOKA 109とあった。道理で並んでいる若者は渋谷と同じような格好をしている。ズボンをズリ下ろしてはいてそのどこが格好良いのか理解に苦しむ。

西郷隆盛・山岡鉄舟会見の碑

その近くに西郷隆盛・山岡鉄舟会見の跡の碑があるはずで人に聞くもなかなか見つからず、町を一周してやっと見つける。道路の逆の側を歩いていて見落としていた。

ここで江戸城無血開城を話し合ったとのこと。確か勝海舟が相手では？色んな人が絡んでいたということだろうな。道は直ぐに、駿府城の前となる。

駿府城

この辺りは駿河国の国府が置かれていたことから駿府と呼ばれ、江戸中期以降は府中と呼ばれることになったとのこと。時代小説では家康の駿府の方が馴染みがある。駿府城の石垣は立派であるが中は公園となっていて高層ビルが立っており寄り道の気になれず。

由比正雪の墓



安倍川

静岡の街中を通り抜けると由比正雪の墓があり写真休憩、その先は川で、安倍川餅で有名な安倍川、橋のたもとには2軒ほど安倍川餅の看板の古い店があるが、食指は動かず、駿河大橋を渡り、次の丸子宿へ。

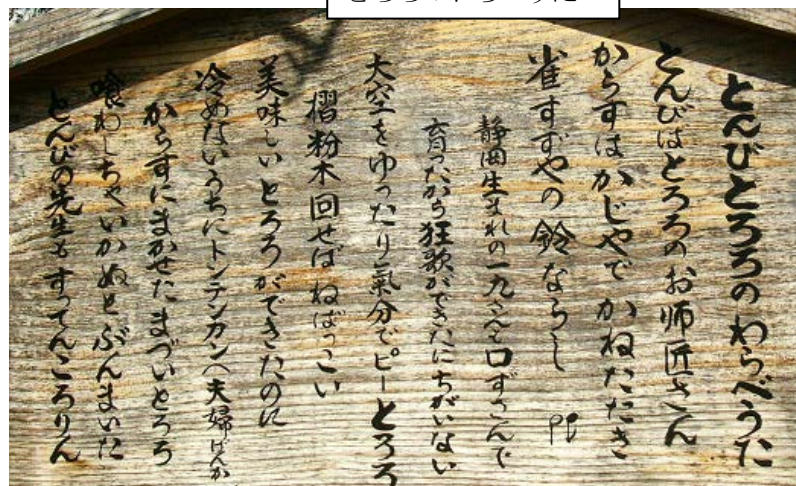
丸子宿 20番目

丸子は「まるこ」ではなく「まりこ」と発音、鞆子とも書かれている。駿河大橋から緩やかな坂道を1時間ほど歩くと丸子宿で時刻は丁度12時、Kさんお勧めのとろろ汁の丁子屋へ。膝栗毛のストーリーでは弥次さん喜多さんは食べ損なったとのこと、本好き人間なので色々な本を読んでいるが、考えてみれば膝栗毛なんて読んだ記憶は無い。近くに道の駅があり、昼時で丁子屋は大混雑、ここが「列の最後尾」に案内され行列に並ぶこと30分、やっと大広間の座敷へ。早速400年変わらぬ味が売り物のとろろ汁を注文、空腹だったこともあって美味しかった、1700円也。その店の中に十返舎一九の像があり、外には膝栗毛の石碑がある。

とろろ汁の丁子屋ととろろの看板石



とろろのわらべうた



宇津ノ谷峠

丸子を出て更に緩やかな坂道を国道沿いに1時間程歩き、宇津ノ谷峠へ。峠の手前には小さい集落があり、屋号を書いた古い家が石畳道の両側に並んでいて「街道」の雰囲気色が濃い。

峠の手前の集落、街道筋の雰囲気が残っている



宇津ノ谷峠の説明

旧東海道(別名 大名街道)
この道は、駿河国の安倍郡と志太郡のさかいにある宇津の山の一番低くなつた鞍部にある峠道で、二つの峠越しがあつた。一つは、源頼朝以後に開発された東海道本筋の通つている宇津の谷峠で、もう一つは、それ以前の鷹の細道の峠である。鎌倉幕府は部隊の行進がでない旧道を廃し、新道を開いたのが宇津の谷峠道である。上り下り八丁(約八七〇メートル)の険路であつた。ここで鬼退治にからむ十郎子の伝説の生れたのも、難所であつた証拠である。豊臣秀吉が天正十八(一五九〇)年七月、小田原城を落し、戦勝を誇り、蹄の音をこだませつつ通つたのも今は兵士共の夢のあとである。慶長六(一六〇一)年、徳川家康が五街道を設け、交通の便を図つてからこの街道は人や物資の往来がひんぱんとなり、殊に参勤交代の大名行列は豪華絢爛たるもので、二十万石以上の大名は武将が二十騎、足軽が百二十人から三百人もあり、一万石の大名でも五、六十人の供揃えて、その行列はこの峠をうめつたことであらう。この道も明治九(一八七六)年トンネルの開通によつてとゞざされたが、明治初期までは上り下りする旅人の難所であつた。

昼なお暗き山道



その集落を抜けると道はいきなり急な勾配の山道となり、峠を越えると言うよりも一山越えるの方がびったり。箱根峠、薩埵峠に続いて3番目の峠越えとなるが、違いは人の少ないこと。人食い鬼のでた伝説もあるところで、昔は「鷹の細道」の名の細い道しかなく、鎌倉幕府が軍隊を通すために現在の道に広げたとのこと、しかしその現在の道もこんなところを本当に大名行列が通れるのか疑ってしまうほど。木々で暗い山道、目も鼻も分からない古い小さい地蔵があつたり、古い石垣が残っていたりして、上り口で二人に会ったのみであとは誰にも会わず、旅のお供のFMは松任谷由美のDJでショパンのピアノ曲特集、もの静かな雰囲気を楽しみながら登っていくと、全く場にそぐわない不思議なものに出会う。

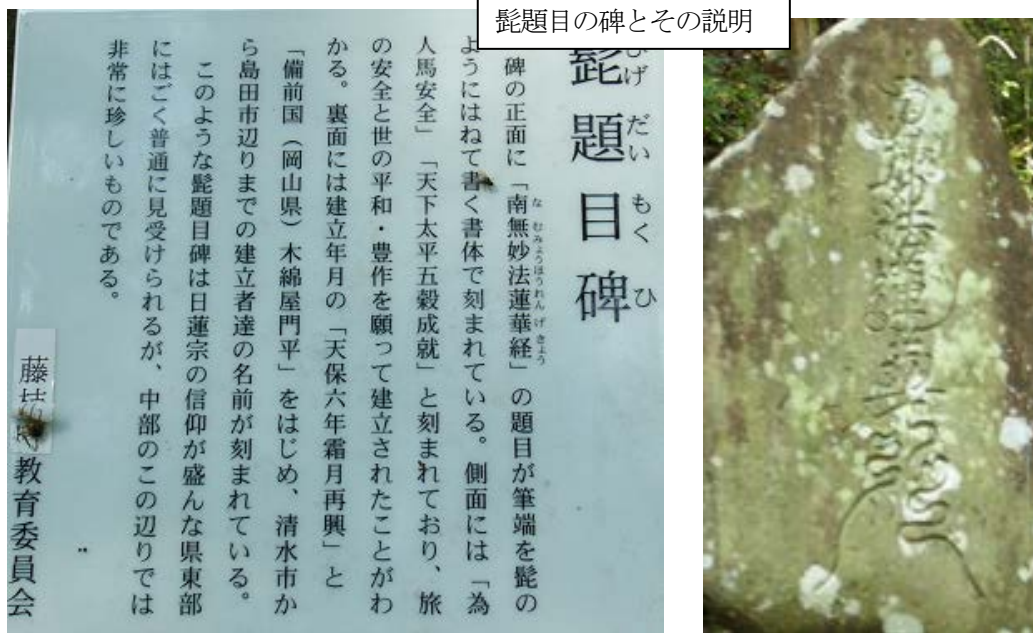
謎の撮影

女性3人+性別不詳1名の4名が山道の真ん中で写真撮影をしている。性別不詳は宝塚的雰囲気(ヴェルサイユの薔薇の剣士風)の黒い服と濃いメイクで手に抜き身の剣を持ち、女性一人は神社の巫女の服装、他の二人はカメラを構えたり、反射板を並べたりしている。思わず立ち止ったところ、全員にじろりとにらまれ、女性に弱い当方はすぐに立ち去ったが一体あれは何の撮影だったのか。後で写真を撮っておけばよかったと後悔。

髭題目碑

下りの途中で「髭題目碑」なるものを見かけ、その意味がわからず、思わず足を止め、石碑の説明を見る。要は、石碑の南無妙法蓮華經の文字が歌舞伎で使われる文字の様に「はねて」いるので髭の様に見えるとのことらしい。

「女性3人+性別不詳1名」のことをあれこれと想像している内に山道を抜けてしまい、町並みにはいる。



岡部宿 21 番目

峠を降りた先の町は次の宿場の岡部、175年前の建物と言う「大旅籠」が残っていて見学、見学料300円也。この旅籠はつい最近までおばあさんが一人で住んでいたが、おばあさんが亡くなり、市が買い取って整備し、公開したとのこと。

大旅籠の「大」は上中下の上の意味だそうで、土間を中心として武士の泊まる部屋と町人の泊まる部屋が分かれており、武士の部屋は天井が高く縁のある良い畳が敷かれ、町人の部屋は天井が低く狭く、縁のない畳が敷かれている。但し、現在では縁の無い畳の方が高級で琉球畳と呼ばれているとのこと、一つ勉強した。内側から閉めると外からは開かない「蔀戸」のしくみが面白く、夏にはフルオープンとなり、兼好法師の「家は夏を旨とすべし」そのもの。

大旅籠柏屋



たけのこ饅頭

この岡部地区はたけのこの産地としても有名とのことで、ガイドブックには名物として「たけのこ饅頭」が書かれており、土産物屋で探したが見当たらず、店の人に聞いたところ、作っているお菓子屋さんでしか買えないとのこと。 そのお菓子屋は、旧東海道からは 15 分程離れたところにあると聞き、急げば 10 分程で行けるさ、とたかをくくって歩き始めたのが大間違い。 田舎の道は遠く、そのお菓子屋にはたどりついたものの 20 分かかっており、往復では 40 分、17 時までに島田宿にたどり着くのが本日の目目標なのに、しかもまだ岡部宿の次となる藤枝の入り口なのに既に 16 時、島田駅まではまだ 6Km、おまけに、あせって近道をしようとして道に迷う、この辺りは旧東海道と JR 東海道線とはかなり離れていて近くに駅は無く、あきらめて国道 1 号線に戻り、バスに乗り JR 藤枝駅に 17 時に到着。

本日の歩いた距離は約 30Km で 5.2 万歩。

次回は 藤枝 -> 島田 -> 金谷 -> 日坂 -> 掛川 -> 袋井を予定

JR 東海道の各駅停車では 3 時間を越えるようになり、新横浜から 6 時始発のこだまに乗り静岡へ 40 分で到着。静岡からは在来線に乗って草薙に引き返してスタート。

新幹線は高いので帰りは静岡から 18 時発の高速バスに乗り新宿に帰着、バス代は新幹線の半額、所要時間は 2 時間 40 分。

もう一つ、たけのこ饅頭は餡の中にたけのこがはいっていて結構美味しかった。

8日目

